



高田親鸞聖人正統傳

六終



樂山  
庫山  
記

高田開山親鸞聖人正統傳卷之六 五天良空迷

五十五歲

五十五歲稻田ニマシクテ教化アリシカ四月中

旬ノコロ同國霞浦ノ邊ニ行タマフ事アリ浦人

申ク<sup>ラサ</sup>コノコロ海上ニスサマシキ光アリイカナ

ル凶事ニカ侍ラント聖人アヤシク思召一日其

汀ニユキタマフ件ノ<sup>ヒカリ</sup>光漁父ノ網ニツレテ磯邊

ニヨル是ヲ見ルニフルキ金泥ノ弥陀ノ木像也聖

正統傳卷之六

人大ニヨロコビ我ニ有縁ノホトケナリトテ守  
テカヘリタマヘリ已上下野記正中記

五十六歳

五十六歳三月下野高田ニマシクテ教行信證ノ  
清書ヲ遂ラル秋九月ニ至テ功畢又又當年諸經  
要文ヲ選シタマフ已上本傳正中記

同年五月二日越後國井東ノ顯智房遠江國桑畑  
ノ專信房高田ニ於テ始テ聖人ニ歸依シ常隨尼

近ノ弟子トナレリ已上本傳

○私云顯智上人專信房二人トモニ初ハ真佛上人ノ門  
弟ナリシカ今日ハシメテ真佛ノ吹挙アリテ聖人ノ御  
弟子トナリタマヘリ

同月十一日聖人高田ニマシマス專空房初テ御  
弟子トナリタマフ是大内國行ノ三男幼稚ヨリ  
聰明俊智ノ人也已上本傳

五十七歳

五十七歳七月下旬稻田ヨリ高田ニウツリテ教

日説法教勸アリ一日白衣ノ老翁來リ聖人ニチ  
カヅキテ申ヤウ我頃明師ノ法味ヲ味<sup>アミ</sup>ジテ心身  
ヨロコヒニ不堪猶子ガハクハ我首ニ剃<sup>カミ</sup>刀ヲ蒙  
法名ヲ賜ハ、志願満足セント其人<sup>ソノ</sup>身<sup>ミ</sup>威容赫如  
タリ聖人コレ凡人ナラスト知レメシ剃刀ヲア  
テ誦文シ法名ヲ信海ト書テ授ラル老翁頂戴尊  
重シテ申サク我日來ノ願望今既ニ滿又我亦ヨ  
ク水ヲ掌<sup>ツカ</sup>トルコトアリ師ノ弘法ノ地ニ於テ併

麗水ヲタテマツラント云テ東南ニ向テ去ヌ人  
々不思議ナリトテ彼翁ノ跡ヲシタヒユクニ鹿  
嶋ノ神籬<sup>ミヤノ</sup>ニ入ヌト覺テ形跡ヲ失ヘリ其後祝部<sup>イハヒ</sup>  
社頭ヲ用コトアリシニ件ノ法名歷然トアリケ  
リ聖人ノ化導神明ニ通スルモノ如此最モ不思  
議ノコトナリ 已上本傳下野記

○私云神不矯<sup>イソク</sup>矣堅約ノ後高田ノ庭面ニ冷泉<sup>ヒヤク</sup>游出今ニ  
至マテ柄杓<sup>ヘサ</sup>ヲ以テ汲之稻田草庵ノ前ニ亦其泉ヲ出ス  
其後二百有餘年高田ノ本寺ヲ勢州一身田ニ移サル麗

井亦田中二涌又於是見神言之不食焉

○或謂鹿嶋ノ神ノ來臨ハ世三十言聖人稻田ニマシマ  
スノ時ナリ故ニ彼井水稻田ニアリト予曰ヲヨソ造記  
者ハ本文ヲ探テ浮説ヲ不取カノ鹿嶋ノ受法ハ特リ我  
本傳及下野記ニ載タリ普ク他流ノ舊記ヲ尋ルニ曾テ  
其説ヲ誌モノナシタマクツタヘ云モノハ唯後世俗子ノ  
謳歌而已イツクンゾ親見ノ本傳ヲ舍テ固巷ノ浮説ヲ  
執セニ矧ヤ予元禄年中兩度稻田ニ往テ祖師ノ遺跡ヲ  
探ニ西念寺ニハ新旧共ニ書傳ナシ吾子何ヲ證トシテ  
言ントスルヤ彼神約ノ如ハ今師弘法ノ地三十冷水ヲ  
寄附セントナリ豈亦一所ニ限ヘケンヤ又世云鹿嶋ノ

神ノ井ノ事猶雜説ナリ予元禄ノ中ニ鹿嶋ニ參詣シ大  
宮司塙伊織信平ニ會シ子ニゴロニ尋レニ一向虛説也

トイヘリ

### 五十八歲

五十八歲寬喜二年庚寅四月五日ノ夜五更下野  
國高田專修寺御自作之影前ニ於テ眞佛上人へ  
唯授一人ノ口訣御相傳也コノ時聖人五十八歲

### 眞佛二十二歲

已上本傳

○私云昔祖師吉水ノ法浴僅ニ五年選擇集ヲ授宗義ヲ  
相承ス今眞佛師入室ヨリ亦六年祖師ノ信印ヲ繼テ親

寫位ニ入タマフ師弟復師弟噫一般ノ竜虎ナルノミ  
同年九月笠間ノ土民千イサキ粟二百粒ハカリ  
持来テ申サク是<sup>コト</sup>ニ<sup>ミタ</sup>度粟ト云モノナリトテ聖人  
ニ献ズ聖人ヨロコヒテ東南ノ山ノ腰ニ植シメ  
ラル今ニ至マテ一年ニ三度ミノレリコレ北國  
ニハ多アリ他所ニハ希ナルモノナリ聖人常ニ  
粟ヲ好ミタマヘハ献レリ 已上下野記

五十九歳

五十九歳高田稲田ニマシクナカラ相州鎌倉ニ  
カヨヒテ道々勸化アリ 已上本傳

六十歳

六十歳貞永元年壬辰正月中旬第五日聖人高田  
住持職ヲ真佛房ニ讓タマフ是時集會ノ門弟等  
ハ顯智專空性信乘然專信善寫都合二十八人御  
影堂ノ左右ニ列坐ス祖師ハ右ノ中座真佛上人  
ハ左ノ中座ニマシク今日ヨリ真佛ヲ以テ我身

ノ代トス各此入ヲ以テ師匠ト仰ヘシイサハ方  
モ師命ニ違スル者ハ永ク我門人ニ非ト仰ワタ  
サレ人々謹行嚴命ヲ受時ニ真佛上人ノ家令海  
老澤大學聖人ノ隨身長岡右京兆國府谷左京亮  
印信狀ヲ奉リ左右ニヒカ工テ人々ノ判形ヲ檢  
合ス祖師自ラ筆ヲ取テ印信狀年号月日ノ次ニ  
高田專修寺任持職親鸞位讓真佛房畢向後予  
門弟等以真佛可仰親鸞者也 親鸞御書判

次ノ判ハ顯智專空性信乘然以下次第ヲ守テ連  
判ス二十八番ハ慈信房善鸞二十九番國府谷左  
京三十番長岡右京三十一番海老澤大學時道判  
形也于時貞永元年壬辰正月十五日祖師六十歲  
真佛上人二十四歲也 已上本傳

○私云是印狀序書ハ顯智上人ノ御筆判形ノ名ハ面々  
ノ自筆也然ニ真佛上人ハ末ノ御弟子ニテ年齡モワカ  
クマレセトモ發心ノ強盛モタクヒ十ク内證ノ智德  
モ諸弟ニ冠タリ聖人ハシメヨリコレ直也人ニアラサ

ルコトヲ知シメシ兼テ親寫位ニ入シメ今亦專修寺ヲ  
附屬シ傳燈第二世トナシタマヘリ更ニナヲ俗諦ニツ  
キテモ羽翼爪牙ノ器量坐セハナリ

同年八月上旬第七日聖人下野國高田ヲ立出テ

率洛ニ赴タマフ供奉ハ顯智房專信房伊達善然

房飯沼性信房四人ナリ真佛專空兩人モ武藏國

矢口渡マテ送タマフ 已上本傳

○私云聖人三十五歲土御門院御宇承元々々年丁卯三月  
越後ニ左遷五年ノ後三十九歲順德院ノ聖代建曆元年  
辛未十一月流罪勅免四十歲七月マテ五年餘越後ニマ

シマス同年八月御上京同十月常陸國小嶋ニ下向其年  
仲冬越後ヘ立赴タマフ四十一歲越後ニマシク四十二  
歲仲春常陸ニ歸リ四十四歲マテ合テ三年小嶋ニ幽棲  
四十五歲正月同國稻田ニウツリ六十歲仲秋マテ十五  
年餘稻田高田ニ住居シタマフ然レハ越後ニ五年京都  
越後合テ二年小嶋ニ三年稻田高田ニ十五年總計二十  
五年北國東國ニマシク六十歲ニシテ都ニ赴タマヘリ  
○或向他流云稻田ニ十年江津ニ七年マシク六十歲ニ  
シテ都ニ還タマフト今是ト齟齬ス是非如何答我言ト  
コロハ面授直弟ノ本傳ニ依ル不知他流ノ說何人ノ實  
傳ニ由テ言之也後世ノ浮說ニ於テハ何ソ取ニ足ン加



之江津ニ七年マシマスト云則ハ聖人五十二歳常陸ヲ  
八十レ五十三歳江津御在居トナル然ルニ高田建立ハ  
五十四歳也又高田ノ任職ヲ真佛上人ニ讓タマフハ六  
十歳正月也依之見ルニ午ハ稲田二十年江津ニ七年ト云  
説ハ尤誤ナリ

### 六十一歳

六十歳八月上旬都ニ赴シトテ相州豆柄下郡江  
津ト云所マテ登タマフコ、ニ近边ノ道俗渴仰  
ノ首ヲカタフケ荐ニト、メ申セシカハ六十二

歳八月マテ此所ニ滞留シテ教勸ヲ布タマフ然  
アレハ供奉ノ人々モカハルク國ニユキカヨフ  
已上本傳

或時江津ノ土民来テ申サク此所ニアマシキ石  
アリ時々動揺スル氣色アリト聖人見タマヒ石  
面ニ如來ノ寶号ヲ書タマフ是ヨリ件ノ石ニ怪  
事アルコナシ 已上下野記正中記

江津掛錫ノ中ニ鎌倉ニカヨヒ御勅化荐ナリ此

時鎌倉ノ元帥北條家一切經校合ノ法會アリ則  
聖人ヲ屈請シテ文字章句ヲ選ノ師トス 已上存

覺傳正中記

### 六十二歳

六十二歳八月十六日相州江津ヨリ帝都ニ赴タ  
マフ供奉ハ顯智房專信房十リ下妻ノ蓮位房飯  
沼ノ性信房モ箱根ノ東ノ麓マテ供セラレケル  
カ二人ハ思召旨アリトテ其コトヲ仰含ラレ

イトマヲ給テ國ニカヘサレケリ十六夜ノ月モ  
サヤカナレハトテ通夜箱根山ヲ越タマフ顯智  
房專信房筈カケテ供奉セラル夜モハヤ曉ニ至  
カクナリヌ暫休息アラントテ或人家ニ左ヨリ  
案内シタマフニ裝束シタル翁トミニニマカリ出  
テ申ケルハ僕ハ當社ノ祠官ニテ侍リ今夜ヨリ  
アヒテ遊宴ス唯今夢ニモアラス幻トモナク権  
現ノ御告アリ我タフトムヘキ客僧タ、イハコ

ハヲ過タマフコトアリカナラス精誠ヲ抽テ下  
寧ニ饗應ヲ致ヘシト御示現イマタ終サルニ貴  
僧來臨シタマフ何ゾタ、ヒトニマシクナシ神  
勅コレ明ナレハ敢テ尊敬セサランヤトテサマ  
クニ饗應ヲ致シ尊重ノ誠ヲ盡セリ仍テ一日御  
滯留アリコレマタ聖人ノ化導神明ノ心ニカナ  
ヒタマフエヘナリ 已上本傳

○他流説云箱根ノ供奉ハ入西房蓮位房ナリ或云性信

房也或云入西房ハ化人也今是等ノ説悉誤ナリ實信  
ノ中ニ是説ナシ蓮位性信ハ箱根ノ東下ヨリ國ニ歸レ  
リ又化人ノ説頭智上人ノコトナリ是師ハ元來化生ノ  
人也他流ニコレヲヌスミテ入西ト云ナセリ具ニハ別  
記ノ如シ

同下旬駿河國阿部川ニツキタマフニ折フニ洪  
水ニテ旅人渡コトカナハス聖人モ笈ヲ下サセ  
休タマフニ背後ヨリイト氣高僧一人來テ云ク  
川水ハ思ヨリ浅シ我コソ此川ノ案内ハヨク知

タシムレイサ、セタマヘ供奉ノ人々モ我ニ附  
テ渡ラレサフヲヘト云テ聖人ノ左ノ手ヲトリ  
川ニ入キ水ハ膝ニ毛及ハス覺タリ渡スマシテ  
見レハ彼僧忽ニ笈ノ中ニ入タマヒヌ人々不思  
議ナリトテ笈ヲ用ニ當<sup>ソノカミ</sup>初常陸國霞浦ニテ得タ  
マヒタル弥陀ノ木像ヲコノタヒ負テ登ラレケ  
ルカ彼尊像ノ膝ヨリ下水ニヒタリテ坐ケリサ  
テナシ件ノ化僧ハ是ホトケナリト云コトイキ

レル<sup>レ</sup> 已上正中記

道スナラ教化アリテ九月上旬ニ遠江國桑島ノ  
專信房ノ宿所ニ著タマフ是边ニ聖人ノ化<sup>修</sup>ヲ齎  
モノ多ケレハ專信シキリニ申サレテコ、ニテ  
年ヲ越タマフ是時伊達善然王<sup>參</sup>ケリ

已上本傳

六十三歳

六十三歳二月ノ初遠江來畑ヲ出テ日ヲ經テ參  
河國來子村ニ入タマフコハニ柳寺トテ小堂ア

リ聖人乘子ト柳寺トニ六七日上リテ教訓  
ヲホトコサル念信房ヲ始メテ道俗ヲホク集  
來聞法ノ場市麩ニコトナラス是ヨリ尾張伊勢  
美濃ナントヲ勸タマヒケルニ化ニ豫モノ路ニ  
サエキレリ已上本傳

同年初夏二十三日美濃ヨリ近江ニコエ木部村  
ニ入タマフニ日既ニクレス供奉ノ人々彼村ノ  
天王堂行テ寄宿ヲ乞フ寺僧許サス聖人ノタマハ

ク婆娑ハイツクモ旅宿ソトテ天王堂ノ縁ニヨ  
リカハリ及テ庭ノ松ニカケテ夜ヲ明サル其夜  
當寺ノ僧侶并ニ木部村ノ長石鼻左衛門太輔友  
連其子友貞ニ同ク夢ノ告アリ謂ル天王堂ノ本  
尊大悲多門天示シタマハク我天帝ノ命ヲ承テ  
爾浮界ノ佛法ヲ擁護ス今佛法弘通ノ名僧來入  
レテ我堂ニ宿セリ速ニ皈依シ法雨ニ浴スヘシ  
ト又大聖多門天聖人ニ告テ言ハク我日者師ヲ

待コト久シ、子カハクハ所持ノ靈像ヲ當堂ニ  
案置レ如來ノ教法ヲ此地ニ弘ヘシ我尊躰ハ別  
ニ退テ師ノ法ヲ守ラント聖人不思議ノ思ヲナ  
シタマフニ任僧善性太圓左衛門親子ヲノク參  
テ件ノ夢ヲ語ル聖人モ亦カノ告ヲ語タマヘリ  
是函蓋符節ナリトテスナハキ聖人ヲト、入彼  
笈ニ入タマフ霞浦感得ノ如來ヲ本堂ニ案シ毘  
沙門天ヲ別ノ堂ニ移シテ永ク真宗ノ寺トナリ

左衛門モマタ門人トナレリ于時四條院御宇嘉  
禎元年乙未四月二十四日ナリ其ヨリ今年七月  
マテ當寺ニマシクテ法雨ヲツ、キタマフ其後  
是寺ニ天女降テ錦ヲ織ノ瑞アリ因テ勅號ヲ賜  
テ錦織之寺ト号ク

已上本傳正中記

○他流ノ叢林集等ニ存覺所記錦織寺ノ傳記ニ依ニ嘉  
禎元年祖師六十三歳ヨリ曆仁元年六十六歳マテ四年  
ノ間當寺ニマシク嘉禎年中ニ本書真佛化身土兩篇述  
作ト載タリ今云是太非ナリ我本傳ニ昔ケリ本傳ハ本

部御逗留ノ時モ影形隨身ノ顯智上人ノ所記ナリ誰カ  
コレヲ昔ヘケシヤ故ニ他流ノ拾遺傳極傳抄等モ我々  
傳ニ習テ嘉禎年中歸洛ノ趣ヲ載タリ況ヤ兩篇述作ノ  
說タチマチニ御本書ニ背戾セリ其義五十二歲記ニ云  
カ如シ

同年八月四日聖人入洛也マツ岡崎御坊ニ入夕  
マフ過ニシ四十歲御上京ヨリ二十餘年住捨夕  
マヘハ跡形モウクツアリナシ井思召ニ印信法  
師ヨリク修理ヲ加テ入洛ヲ待レケルホトニ昔

ニカハラスアリケリ于時四條院聖代嘉禎元年  
乙未八月上旬第四日聖人六十三歲也伊達善然  
房ハ伊勢ノ川曲ニノコシ置タマヒケルカ同月  
十一日ニ京ヘ參レリコノ時後九條殿ヨリ五條  
西洞院ノ御所ヲ能レツラヒテ管ノ好モ淺カラ  
ス且ハ玉日姫君ノ御菩提ニモ侍ハ此所ニ移任  
タマヘト累ニ仰ラレシカハ九月二十日アリ  
ニ西洞院ニ移タマヒキ是マテ顯智房專信房善

然房三人共ニアリテ給事ス同月ノ末ニ聖人仰  
ラレテ言ク今ハ都ニモ居ナシ井ミタリ專信ハ東  
國ニ下リ眞佛性信ニ云ヲキタルコトアリコハ  
口ヲ合テ念佛弘通アルヘシ善然モ伊勢ニ歸リ  
未熟ノ者トモヲ教勸アレ都ニハ顯智一人ニテ  
足タリ又是モアトヨリ伊勢ニツカハスヘシト云云  
スナハチ十月二日專信房善然房御暇レタマヒテ  
合ニ下ラレケル聖人ハ還洛ノ初ヨリ毎月二

十五日源空上人ノ忌ヲムカヘ人々ヲ集會セシ  
メ聲明ノ宗匠ヲ屈請シ念佛勤行シテ師恩ヲ謝  
シタマヘリ已上本傳下野記

同月ノ末歸洛御ミマヒノ為ニ蓮位房性信房京  
著スコノ兩人ハ聖人御歸國ノ時思召ム子アリ  
トテ道ヨリ返サレタリケルカ性信ハ横曾根ヨ  
リ蓮位ハ高田ヨリ眞佛ノ御名代トシテ初アツ  
カリ奉ル聖教ヲ持筈掛テ登レリ十一月五日顯



智房ヲハ伊勢ニツカハサル 已上本傳存覺傳

○私云他流説ニ下妻蓮位ハ聖人歸國ノ時御聖教ヲ衿ニ掛テ供奉セリト云リ是ハ御歸洛ノ後幾程ナク登ラレタルヲ聞誤テ命云ナリ尤本傳ニ背ケリ既ニ箱根ヨリ返サレタリ何ゾ供奉スルコトアラシヤ

六十四歲

六十四歲西洞院ノ御坊ニ坐ス三月ノ末南庄乘然房ヲ初トシテ東國ノ御門弟ノ首等日ヲ追テ尋參レリ聖人ソノ跡ヲ認來モトシテ或時ハ岡

崎亦ハ二條冷泉富小路ニマシク或時ハ吉水一條柳原三條坊門富小路等所々ニ移テ住タマフ 已上本傳

六十五歲

六十五歲五月十日真佛上人上京アリ聖人ハ岡崎御坊ニテ對面ナリ岡東ノ跡ヲホツカナキコト有トテ同月十七日顯智房ヲ東國ニ下シム元來神足ナレハ旅程五日ヲ經テ同月二十二日高

田ニ下著ナリ飯沼性信ハカ子テヨリ聖人ノ御  
心ヲ知ケルホトニ早速ニ高田へ参ラレタリ其  
ヨリ近里遠郷ノ御門人三ナクニマイリツトヒ  
テ都ノ事ヲ問奉ル真佛上人今年十月中旬高田  
ニ下タマフ同月下旬ノ初鹿嶋ノ順信房上京ス  
遠江ノ北鶴見ヨリ專信房同道参河ノ桑子ヨリ  
念信房モホモナハレケリ巴上本傳下野記  
西本六十六歳六十七歳

六十六歳十一月高田專空房都ニ登タマフ西洞  
院御坊ニテ聖人ニ對面ナリ是ハ當初祖師京師  
ニ赴タマフ時武藏國矢口ニテ送ラレケルニ聖  
人ノ仰ニ云ク常陸下野ノ弘通ハ高田ニ真佛ア  
レハ我アルニ同シ顯智モ京へ具スレハ道々ノ  
弘法ハ身フタツ持ニ似タリタ、三ノ陸奥ノコト最  
イフカシク思ソ是ヨリ彼國ニ赴是心覺圓無爲  
心等ニ教示シタチカ立川ノ邪義ヲ防カンコト御房ニ

非シテ誰カアルヘキト念比ニ示サレケレハ泣  
々別奉テ真佛上人ノ印狀ヲウケ奥州和賀郡ニ  
下リ今年三月ニテ教勸シキリナリ凡陸奥ノ弘  
法ハ專空ヨリ國中ニ流通セリ其間オリク高田  
ニカヘリ真佛上人ニ面拜セラル五年ノ春秋聖  
人ヲ拜セサレハ餘ニユカシク思奉トテ顯智房  
モ同道ニテ十一月二日高田大内ヲ出テ同十六  
日京著ナリ聖人喜悅斜ナクナラス関東弘法ノアリ

サマ操カヘシク向タニヒ御ヨロコビノ餘ニ顯  
智專空ヲ左右ニ召兩人ノ手ヲ取テ真佛ハ我躰  
ナリ顯智專空ハ左右ノ手ナリトテ歡喜ノ淚ニ  
咽タマヘリ此時ニハヤ三代相承ノ徳ミヘタリ  
ト人ミナ申アヘリ專空房明年八月東國ニ下ラ  
レケリ 已上本傳下野記

六十八歳

六十八歳聖人五條西洞院ニマシマ女仲春ノコ

口常陸國那荷郡大部郷ノ庶民平太郎ト云者地  
頭ノ役ニサ、レテ紀州熊野神社ニ詣ケル當初  
聖人ニ謁シテ念コロニ勸化ヲ受シホトニコノ  
夕ヒモ御許ニ参テクハシク教誡ニ豫ル聖人誨  
テ言ク神明ニハ詐ナシ證誠殿ノ本地即西方ノ  
弥陀如來ナリ唯ヒトヘニ本願ヲ信シテ常没ノ  
凡心ナカラ強テ威儀ヲカヒツクラフヘカラス  
是カナラス神明ヲ輕ニムルニ非ス和光ノ垂迹

ハ引入佛道ノ結縁ニアレハ努々冥見ヲメクラ  
シタマフヘカラスト茲ニ因テ平太郎熊野ニ参  
詣スルニ唯師教ニカセ道ノ作法トリワキテ  
威儀ヲ繕コトナクヒトヘニ誓願ヲ信テ他ナシ  
ハタシテ無為ニ井リ神前ニ通夜イタシケル  
夢ニ權現證誠殿ノ扉ヲ押ヒラキ衣冠ノ姿ニテ  
咎メテ言ク汝何ノ故ニ潔齋セスシテ我前ニ  
イルヤト其時ニ聖人忽然トアラハレタマヒ是

ハ善信カス、メニマカセテ参ケル者ニ侍ト仰  
アリケレハ權現効ヲタ、レクシ聖人ニ色代ア  
リ敢テ咎メタマフコトナシト見テ夢サメ畢ヌ  
奇異ノ思ヲナシ歸洛ノトキ聖人ニ参テ件ノ夏  
ヲ申ニサモアリナシト仰ラレキ尤不思議ノコ  
トナリ三月中旬御暇申テ下レリ

巳上本傳下野記

○私云世平太郎聖教ト云双紙アリ平太郎熊野ニ参シ  
ハ節分ノ夜ナリトテ他流ニ節分夜コレヲヨム夏ヲ好  
モノ挙テ興之此雙紙大ナル信ニテシカモ愚昧ノ筆也

見ニタラス殊ニ平太郎熊野参詣ハ仲春ナリ何ソ節分  
ナラン

### 六十九歳

六十九歳ノ事迹諸傳ノ所載タ、遠近ノ御門弟  
或ハ御許ニ参テ面謁シ或ハ手書ヲ捧テ教示ニ  
興ルコトノミナリ猶世ノ浮説アレトモ實傳ノ  
中ニ所見ナシ故ニコ、ニ贅セス

巳上私

### 七十歳

七十歳五月御弟子入西房日来聖人ノ真影ヲウ

ツシ奉ラント思コ、ロアリ聖人請テ其志ヲシ  
ロシメシ七條邊ニ定禪法橋ト云佛繪師アリ彼  
ニウツサシメヨト仰ラル則法橋ヲ召テ聖人ノ  
尊顔ヲ拜セシムルニ定禪涙ヲ流テ申ケルハ昨  
夜不思議ノ靈夢ヲ感シ侍リ貴僧二人來タマヒ  
テ此一入ノ化僧ハ善光寺ノ本願ノ御房ナリ汝  
此僧ノ眞影ヲウツシ奉ヘシトアリ其夢ノ中ニ  
サテハ生身ノ弥陀如來ニコソト身毛ヨタチテ

尊敬シ奉キ今コノ聖人ノ尊容夢ノ裏ノ化僧ニ  
少モタカヒタマハストテ感涙袖ニアマテリテ見  
ケリ慶ハ仁治三年壬寅五月二十日ノ夜ニテ十  
シ侍キ聖人彌陀如來ノ應現ト云コトイキレル  
已上本傳下野記

七十一歳七十二歳

七十一歳七十二歳ノ中ニ高僧和讚浄土和讚御

草案再治ハ四年後也 已上本傳

七十三歲七十四歲七十五歲

七十三歲ヨリ七十五歲ニ至ル三年ノ中東國ノ門人ヨリク參テ就中テ鹿嶋ノ慈信房善寫兩度テイリテ關東鎌倉等ノ事々阿輪信願房カア之キフルテヒテテ偽ヲ飭テ申サレキ

已上本傳

五代記

七十六歲

七十六歲正月高僧淨土兩和諉再治清書二十一

日畢功 已上本傳

七十七歲七十八歲七十九歲

七十七歲ヨリ同九歲ノ事迹本傳舊記ニ所見ナ

已上私

八十歲

八十歲三月四日文類聚鈔御製作

已上正中記存

覺傳

八十一歲

八十一歲愚禿鈔草案 已上本傳

八十二歲

八十二歲正像末和讚御草案後世物語書記 已上本傳

八十三歲

八十三歲南無言辭集述作八月下旬愚禿鈔清書 已上本傳

八十四歲

八十四歲ノ春常隨ノ門人蓮位房不思議ノ夢想ヲ感スルコトアリ謂ク聖德皇太子親寫聖人ヲ礼ニ奉テ言ク

敬礼大慈阿弥陀佛ヲ為妙教流通來生者  
五濁惡時惡世界中 決定即得無上覺也

時ニ建長八年仲春九日ノ夜五更ノ告ナリ聖人  
弥陀如來ノ應現ナルコトニサニイテ示ルキコ

トナリ 已上野記至德記



八十五歲

八十四歲ヨリ八十五歲ニ至テテ西方指南鈔御筆作已上本傳

八十六歲

八十六歲正嘉三年戊午四月五日夜五更京都西洞院御坊御自畫ノ影前ニ於テ顯智房へ唯授一人口訣御相傳也今年九月二十四日正像末和讚再治清書畢又十二月獲得信心集御述已上本傳

傳正中記

同奉十二月三條富小路善法院ニ於テ二十一通ノ口訣ヲ顯智へ御相傳アリ高田專修寺任持職ヲ附與シタマフ已上本傳

八十七歲

八十七歲正元元年巳未四月五日夜五更洛陽西洞院御坊御自畫ノ影前ニ於テ專空房へ唯授一人口訣御相傳也已上本傳

八十八歲

八十八歲ノ事迹サレテ舊記ニ委曲ナラス

已上私

八十九歲

八十九歲弘長元年辛酉三十餘通ノ口訣ヲ專空

房へ御傳授也

已上本傳

○私云聖人六十三歲御歸洛以來九十歲ニ至マテ關東北國ヘツカハサル、消息ヲヨソ九十二通其年曆不及記

九十歲

滿九十歲人皇八十九代龜山院御宇弘長第二

戊年十一月二十八日正午頭北面西右脇ニ卧テ

入滅シタマフ洛陽三條坊門ノ北カハ富小路ノ

西カハ善法院ニ於テ御遷化ナリ是ハ御舍弟天

台宗善法房尋有僧都ノ坊舎也マツ今年八月ヨ

リ門弟ノ事向來モムツカレトテ善法房ノ許ニ

移居タマフ十月ノ末ニ及テ聖人御老疾アリ京

都給仕ノ弟子タチ並ニ尋有僧都ヨリ新參ノ了

阿房光正ヲ使トシテ遠江國桑畑ノ專信房ノ方  
ヘ文ヲツカハシ高田ヘ告ラレサフヲヘト申ヲ  
クレリ此時專信モ顯智モ在東國ニヨリテナリ  
專信房ノ計トシテ件使霜月十三日高田ニ下ツ  
キヌ其前ノ夜聖人顯智ノ夢中ニ語テ言ク汝ハ  
ヨク我汰燈ヲ挑ヘキ人ナリ滅後オユタリナク  
衆生ヲ度スルコト如我セヨ我往生モ近ツキタ  
リ謹テ是語ヲ護持スヘシト云云サメテノチ不

審ハシ多ニ翌日京都ノ使アリケレハ聞モアヘ  
ス上京ス遠江ヨリ專信モ同道シテ十一月十九  
日午時江州守山ニ來著スル所ニ善汰房ノ使ニ  
逢リ御異例ユルヤカナリト聞テ暫心ヲヤスメ  
十九日夜ニ入テ京著ス聖人對面アリテ仰ニ云  
ク各ハナニユヘニ登ラレケルソ顯智申サク聖  
人ノ御異例ナルヨシ光正カ告下リサフヲヒシ  
ニヨリ急ノホリ侍ルト聖人キコシメシ光正ハ

河内へ下ルトヤラン暇乞セシカサテハ東國へ  
下コトヲ我ニハカクレケルヨサリナカラ頃ハ  
ユカシク思シニウレシクモ登ラレタリト打咲  
セタマヒ專空ハイカキト御尋アリ是ハ八月ヨ  
リ陸奥ニ下シ源海モ俱ヒサフラフト申ス聞食  
テツレコソ對面ヨリヨロコハシケレトノタマ  
フ其コロハ御イタハリモイサ、カ快リキ二三  
日ハ東國ノ管ノ物語トモヲモ仰ラル御機嫌ヨ

シト見テシケレハ顯智御ソハ近ク参テ御存命  
メテタキウチニ關東ノ慈信房モ登ラレサフラ  
フヤウニ申下タクコソ存サフラヘト連リニ申  
ス聖人彼者ニクレトテ隔ルニアラス面リニ我  
法ノ讎ナルヲ知ナカラ由ナキ徒事ヲモ申モノ  
カナト便ナクノタマヒシカハ顯智重テ申出コ  
トモ得スシテヤミヌ二十三四日ヨリハ口ニ餘  
夏ヲ宣ズ常ニ祢名ノミツトメタ下ヒ折々ニ尊

曠大ノ御慈悲大師源空上人ノ勸化ニ逢奉コト  
ヲ悦タマフ二十七日申刻御沐浴アリ專信ニ命  
シテ御髮ヲ剃シム其後人々ヲ退ケ頭智一人ヲ  
喚タマヒ竊ニ御談話アリテ手カラ持タマフ桐  
ノ念珠ヲ賜ハリ生テノ餘風<sup>フ</sup>吹テノ形見ニ見タ  
マヘト仰ラレキ御物語ノ事ハ他人ノ聞知コト  
ニ非ス念珠ヲ賜テノ御語ハ明ニ他人ノ人々モ聞  
ハヘリキ漸<sup>ヤ</sup>アリテ頭智涙ヲオサヘ退出アリ御

往生モ近々ト覺ユルソミナク問奉ント思タマ  
フ事ノアラハ御存命ノウキニ申サレサフラヘ  
トアレハ各涙ニ咽ハレケルカ御障子ノ内ニ入  
来來ノ安心ヲ申取ル聖人ゾ、マヤカニ仰ラレ  
何事モ浄土ニテコソト<sup>多</sup>言テ後ハ稱名ノミナリ  
二十八日午ノ半ニ至テ頭北面西右脇ニ卧念佛  
ノ息ト共ニ御遷化也座上座下ノ門人タチ佛日  
既ニ滅シ法燈斯ニ消ヌトチ悲ノ聲止コトナシ

二十三日ヨリ御稱名シキリニ勤タマフ御弟子  
タキアマリニ御念佛ス、ミタマハハ疲ヤオハ  
シマサント申ケレハサソアルラント仰ラレテ  
他ノ語ナシ御臨終ノ時ニ及テ香氣芬郁シ西方  
ヨリ白道ノ光明現シ來夜ニ至マテ禪坊ノ裏白  
日ニ相似タリ 已上下野記

○問或説云顯智上人ハ御不例モ知タマハス專信房ト

共ニ上京アリ二十八日守山ニ宿シ二十九日京者ト一  
説ニ二十七日曉ノコロ善法院ニ著タマヘリ故ニ傳ノ  
繪相ニ松明ニテ顯智ヲ迎奉躰アリト是等ノ説是非如  
何答ニ説共ニ非ナリ舊記ノ中ニ此説ナシコレ本傳ヲ  
不見人ノ所言ナリ辨スルニ不足亦松明ヲ以テ顯智ヲ  
迎トハ是繪相ヲ見誤レリコレハ聖人送葬ノ松明也顯  
智上人專信ヲトモナヒタマハヌト又松明ヲ持ル人ノ  
衣服ヲ見テ其義ヲ知ヘシ

○或向他流説云御往生ハ西洞院御坊也ソレヨリ御尊  
骸ヲ善法院ヘ移シテ送葬セルカト是説アリヤ曰非也  
聖人ハ今年八月ヨリ善法院ニ移タマヘリ

○或謂御終焉ノ時異香薰郁シ光明來現スルハ聖衆來迎ノ躰也來迎ハ却テ諸行往生ノ機ニアレハ聖人ノ臨終ニハ奇特アルヘカラスト覺ユ如何答ソレハ至極文旨者ノ云コトナリ曇鸞道綽善導等臨終ノ奇異甚多シ殊ニ圓光大師終焉ノ不思議高僧和讚西方指南鈔ニ筆ヲツクシタマヘリ汝是等ノ高僧ヲ以テ諸行往生ノ行者ニシテ真ノ報土ノ往生ニ非スト思フヤ誠ニ宗門ノ外道也

翌二十九日卯刻送葬ス御棺ハ印信ト專信トコレヲ昇カ頭智以下ノ弟子ハ五條袈裟ヲ著シヨリ多

ニテ御棺ノ前後ニ從フ尋有僧都モ送り申サレケリ道路ハ善法坊ヨリ京極ニ出テ五條ノ橋ヲワタリ河東ノ道ヲヨキリ鳥部野ノ南延仁寺ト云所ニ送テ火葬シ奉ル三日ニ至テ頭智專信印信尋有ソノホカ給仕ノ門人等葬所ニテ并リ遺骨ヲ拾フニ正骨二十粒ニ餘レリ十二月六日東山吉水禪坊ノ近隣大谷ニ納テ石碑ヲ立ツ聖人ノ遺囑ニカセ五旬ノ中陰ハ京ニトマリテコ

レヲ勤ム明年九月二十一日印信僧都二丈五尺  
十三重ノ塔廟ヲ造テ碑ニ並テコレヲ建ツ已上  
本傳

十二月六日納骨ノ時總計二十五粒ノ齒骨ノウ  
千九粒並ニ總骨コレヲ大谷ニ納ム殘十六粒ハ  
桐ノ筒ニヲサメ顯智房コレヲ持下リ高田ニ御  
墓ヲ築テ九粒コレニ收ム七粒ハ顯智房ノ許ニ  
持タ下フ已上下野記

○私云此大谷ノ御墓所ハ今ノ知恩院ノ上ニテ空上人  
ノ墳墓ノ十ナリニテアリシナリ

○或向佛光寺ノ傳云ソノ葬歛ノミキリニ顯智專信兩  
人幸ニマイリアヒテ遺骨ヲ拾オサメ奉ル人數ニクハ  
、リケルト云云是說ノ如ナラハ顯智上人ハ御送葬ノ  
吏ハ專ニ執行タマハサルト云ヘキヤ如何答是尤後弟  
我執ヲ以テ書シシタニ妄筆ナリ我高田本傳ニハ送葬  
納骨ノ月日并ニ其人名明々ニ載タリ普ク他流ノ諸傳  
ヲ尋ルニ其月日人名ヲ載タルモノナシ覺信ハ尼女十  
レハ葬ノ供サヘセラレス如信ハモト來ヨリ關東ニアリ真正  
寺ノ源海ハ本年八月ヨリ專空上人ニトモナヒテ奥州



ニテリ故ニ他流ノ繪傳ニモ是等ノ人ナシ頭智上人ニ  
非シテ誰カ專コレヲ執行ヤ汝其人ヲ出スヘシ又視聽  
記ト云モノニ御送葬等ノ萬端三十覺信尼公ノ計タル  
ヘシト書ルモ本傳舊記ヲ知サルノ誤ナリ共ニ掌ヲ抵  
テ大笑スヘシ

聖人滅後六年文永四年丁卯頭智上洛アリ大谷  
墳墓ヲ改移ンカ為ニ祇園林ノ丑寅モトノ墓所  
ヨリ西ノ麓ノ地ヲ買トリコレヲ點ス 已上本傳

○私云件ノ新地ハ參河守範賴ノ息女所持ナリ此人ハ

源氏ニテ藤原在基ノ母也彼所持ノ地ヲ子息在基ニユ  
ツラレタルヲ頭智上人青銅十七貫文ヲ以テ買取タマ  
フ是母子トモニ頭智上人京都ニ於テ大且那ナリ具ニ  
正中記ニ見タリ彼賣券狀今ニ高田ニ在之件狀云

沽却渡大谷地壹處事

口伍文與同南面拾三丈伍尺北面拾丈沫尺

右件地一處者自母所讓給也而今依有直要用錢十漆貫  
文源氏女所沽却渡實也但雖可本券制渡依相交他事不  
制渡以此狀為新券可被備向後證文努々不可有他如之  
狀如件

文永四年二月廿一日

藤原在基

聖人入滅十一年ニ至テ龜山院御宇文永九年壬申八月上旬顯智上洛シ印信僧都ヲ以テ九條殿ニ申シ祖師ノ廟堂造建ノ事ヲ奏達ス速ニ院宣ヲ下賜リ并ニ公書ヲ蒙ヨロコヒニ夕ヘス聖人ノ御門弟等ヲ誘ヒ文永四年源氏ノ女ヨリ買取トコロノ新地ヲ點シハシメノ墳墓ヲコ、ニ移シ並ニ廟堂ヲ構立テ眞影ヲ案置シ勅榜ヲ申下

テ本願寺ト號ス于時文永九年壬申十一月二十八日正午ニ至テ成功法事等畢已上本傳

○私云此改葬ノ地ハ今時洛東知恩院ノ塔頭崇泰院ノ地是也今ニ其跡背後竹林ノ中ニ残レリ  
○私云他流説ニ文永九年改葬ノ地ハ覺信尼公所持ノ地也カノ禪屋ヨリ寄進セラレ廟堂モ覺信ノ建立也ト云リ是ア卜形モナキ偽ナリ按ルニ源氏ノ女ヨリ賣トアルヲヨキニセコト、思テ覺信尼ト云紛カシタルナリ誠ニアサマシキ謀計ナリ是地ノ賣券狀上面ニ出力如シ加旃覺信覺如二代御廟預リノ證文ニ顯智上人ノ

建立ナルコト明ニ載タリ

文永九年仲冬廟堂成就シテヨリ以來ハ頭智寺務トシテ高田ノ專空興正寺ノ源海カハルク給仕ヲ助ラル

○私云文永九年壬申ヨリ正安四年壬寅七月マテ凡三

十一年ノ間ハ頭智ノ後專空兩上人御廟堂寺務也故ニ

覺信覺如ヨリ御廟アツカリノ證文ヲ頭智專空へ進上

セラル、ナリ

○或向他流説ニ文永年中以來ハ覺信禪尼寺務也一説

ニ如信任職ト或云覺信ノ息覺惠法師寺務トシテ龜山

院勅願ノ宣旨ヲ蒙レリト是義云何曰是等説皆偽也覺

信覺如ヨリ御廟預リノ證文アリ若正レク寺務職ナラ

ハ何ノ故ニ證文ヲ捧ンヤサレハ正安四年以前ハ覺信

如信覺惠共ニ唯御廟預リノ留守居ニテ曾テ寺務ニハ

アラス今ニ至マテ代々ノ讓狀ニ皆苗守職ト書ハ此故

ナリ然レハ覺如ヨリ以來与テ言乏ハ住持職ト云ヘシ

奪テ言乏ハ後々末代ニ至マテ唯アツカリノ苗守居職

也其旨覺信覺如兩通ノ證文ニ明ナリ殊龜山院宣旨并

ニ公書共ニ頭智上人ノ頂載ナルヲヤ

文永九年ヨリ六年後建治三年丁丑仲冬ニ至テ

聖人ノ娘覺信禪尼顯智ニ請テ申サク親子ノ實  
モ忘カタク教化ノ師恩モ浅カラサレハ御廟堂  
ヲアツカリウケタマハリ御影ヘ奉公申サハイ  
カハカリ悦ハヘラント頻ニ望アリ因テ後代ノ  
龜鏡ナレハ聖人ノ御門弟タチニ對シテ預リノ  
證文ヲ書シメ顯智コレヲ取廟堂ヲ彼尼公ニ預  
置テ高田ニ下リヌ

已上本傳

○私云建治三年ハ聖人滅後十六年也件證文今ニ高田

ニ在之彼預狀ノ文云

右は安比ハクンちやうのふとら師のふ房はぬきい  
とわんち中戸ゆゆるとまよふりて尼よあははま  
をこいあり志ううハたとい覺信ウ子孫なうく志やう  
じんよやうこもも言田乃三こもむさううあ  
やぬううはへくの後れをのため一まうこまの  
らやあまうこ

孝んち三秘人十一月七日 あまあきまん

孝んらん上人いなるのゆてたちめは申へ

廟堂建之ヨリ二十五年永仁四年丙申四月十二

日高田四代專空上人上京アリ大谷御廟ノ敷地  
分内セハキ故ニ御廟ノ南隣ニ青蓮院ノ門侶良  
海律師ノ園地ノアリケルヲ買入テ境内ヲヒロ  
ケタマフ 已上五代記專修寺書記

○私云彼賣券狀今高田ニ在之其年号名付云

永仁四年七月十七日

良海在判

高田專空御房

聖人遷化四十一年以後正安四壬寅曆ニ至テ覺  
如御廟寺ヲアツカリ申サル 已專修寺書記

○覺如預狀今高田ニ在之其現文云

右當寺者顯智法師為報恩謝德令勸進親寫聖人御門弟  
等以院宣并公書令修造處也余者於後々末代雖為子孫  
令相傳官領輩不可違犯彼義為後且證文如件

正安四年壬寅二月二十六日

覺如 在判

阿弥陀寺專空御房

シカアレハ御廟寺ノ本主ハ末代ニ至マテ高田  
ニシテ預守ルハ覺信禪尼ノ子孫ナル者也 已上私  
已上聖人正統傳全備

餘論

○他流人予ニ問云我視聽記ニ本廟アル所ヲ親寫一派ノ本寺トスヘレト云リ此義理アルニ似タリ如何予荅云宗派ノ論ハ血脉ノ傷正ニアリ必シモ本廟ノ有無ニカ、ハラス抑上宮太子ノ御廟河州科長轉法輪寺ニアリ然トモ天王寺法隆寺等是ヲ本寺トセス空海ノ入定ハ高野山也新義古義ノ真言高野ヲ本寺ト仰コトナレ傳教ノ本廟ハ叡山ニアリ三井彦山等ノ天台是ヲ本寺トスルヤ否汝明ニ是ヲ見ヘレ加之大谷ノ寺院ハ文明年中台徒ノ為ニ燒拂ハレ蓮如大津ニ出奔ノミキリ井上願知ト云者御廟ヲ守其地ニ家造シテ住持トナリ代

々相繼平信長大乱ノ時御廟再退轉シ本尊真影ヲ栗田村大工總兵衛カ家ニカクス事五年其後同村土民助左衛門常圓禪門カ家ニ移シ御廟骨ハ常圓カ畑ノ中ニ埋カクス大谷ノ廟地ハ一乱ノ後須和某カ知行所ト成後又御疊所伊阿弥カ所領トナレリ此向十八年也其後萬治年中ニ至マテ願知以下八代住持相續セリト叢林集ニ載タリ然ラハ汝カ家ニハ文明三年ヨリ萬治年中ニテ百八十餘年ノ向ハ願知カ家ヲ本寺ト崇メ願知ヨリ八代マテノ禪門ヲ本寺ノ善知識ト拜シタリヤ就中テ五年ノ間ハ大工惣兵衛土民助左衛門カ宅ヲ本寺ト仰キ彼等ヲ歷代ノ上人ト拜ミタルカ嗚呼天下万人ノ大

笑タラン又何ソ今日ニ至マテ鳥部野ノ御廟ヲ本寺ト  
不仰寛文中ニ新ク墳墓ヲ作テ大谷トノ、シルヤマ  
ンガラ乱心孩児ノ語ニモ劣レリ誠ニ射天含血ノ耻滄  
海ヲ傾テ洗トモ雪ムヘカラス

○或云視聽記ニ專修寺佛光寺ノ傳ニ本願寺ノ三字ヲ  
削リ親寫ヲ己カ家ノ祖トセント欲ス然ルニ兩寺ノ傳  
同ク建佛閣ノ文アリ其佛閣ハ即本願寺也弟子ノ家師  
ノ家ヲ背テ尊齋ヲ凌已ヲ別立ス是末代ノシルニナル  
ヘシ云云又叢林ニ覺如ノ時專修寺佛光寺等本願寺ニ  
繫囑ス蓮如ノ時亦皈依セリト書タリ此義云何予云是  
亦闇盲ノ大偽也六ツ建佛閣ノ三字ヲ本寺ノ謂トシモ

フコト最以テ愚盲ナリ是墳寺ノ謂ナリ三歳ノ孩児モ  
是ホトノ夏ハ知ヘシ墳寺ハ却テ不美ノ稱也又專修寺  
ノ本傳ハ他流黃口者ノ所知ニ非ス昔ヨリ秘本トシテ  
今ニ全部ノ印板ナシ故ニ今ノ正統傳ニモ引文ハカリ  
ヲ出スタマク覺如所記ノ傳アリ是モ我<sup>カ</sup>頭智上人ノ口  
説ヲ如信ヨリ傳聞テ筆記スル所ナレハ當家ニモ所用  
スルナリ覺如自ラ筆ヲ捺テ當家ニ送進ノ本アリ其題  
号ニ全ク本願寺ノ三字ヲ不載コレ當家ハ寫師血脉ノ  
正統タルヲ恐慮スル故ナルヘシ汝モレ狐疑ニ迷ハ、  
速ニ專修門ニ歸入シテ彼自筆ヲ見ヘシ汝力奸謀ニ習  
テ何ソコレヲ削テ思フヤ又專修ノ一室ハ唯授一人ノ

嫡家也故ニ傳法相承ノ時岡山ヨリ十七代ノ今ニ至マ  
テ悉ク親寫位ニ入タマフ祖師ノ門流多トイヘトモ他  
家ニ全ク是傳法ナシ加之高田ハ祖師五十四歳ノ建立  
ニシテ寫師一派ノ總本寺トシタマヘリ明ニ五十四歳  
ノ傳ニ云カ如シ本願寺ハ文永年中我頭智上人コレヲ  
建立アレトモ祖師一派ノ本寺トハシタマハス故ニ僅  
ナル尼女ニ預置テ全ク傳法血脉ナシ如信ハ關東ニ於  
テ頭智上人ヨリ受法セラル今現ニ彼真筆ノ證狀アリ  
ユカシク思ハシ者ハ我門庭ニ跪テ證狀ヲ拜見スヘシ  
然ルヲ巴カ愚蒙ナルマヽニ嫡家宗室ヲ弟子ノ家ト云  
テ頭智草創尼女預守ルノ家ヲ以テ卻テ祖師一流ノ

本寺ト云テサント謀コトニハ大祖ノ冥罰道所ナシ  
ニハ覺信ノ置文ニ覺信カ子孫永ク高田ノ義ヲ背サ  
フラハバ不孝タルヘシトアリ是汝カ叢林ニ載タリ夫  
不孝ノ罪ハ五逆ニ超過ス汝家祖ノ身ヨリ血ヲ絞ノ罪  
人ナラスヤ三ニハ覺如ノ證文ニ於後々末代雖為子孫  
令相傳官領輩不可違犯高田義ト載ラレタリ是亦汝カ  
叢林ニアリ若高田ノ義ヲ背トキハ列祖覺如ノ法敵ニ  
シテ永ク彼子孫ニ非ス豈無間ノ獄人ニアラスヤ汝々  
トヒ富樓那ノ辨ヲ借鄴食其カ舌ヲ振トモ是會答ヲ許  
スヘカラス又專修ノ室ハ歷代踵ヲ継キ眉毛相結テ傳  
法ス一時刹那モ他家ニ歸スルコトナシ然ルニ汝カ祖



覺信ハ尼女ニシテ血脉相承ナク如信ハ我顯智上人ヨ  
リ受法ナレハ是ヲ隱サン為ニ種々ノ偽ヲカサレリ愚  
昧ノ謀計虎皮ヲ被ノ狐ナルヘシ

○向他流云歷應元年十月先年唯善カ盜下リシ本尊鎌  
倉ヨリ返座ノ沙汰ニ由テ覺如存覺高田ノ專空尾州ニ  
テ迎ニ下向云云是說如何答是亦大ナル偽ナリ專空上  
人ハ今年八月二十九日長沼信性房會津慈光房ヲ召具  
シ奥州ニ下リ十一月高田ニ歸タマヘルコト舊記ニ詳  
ナリイツノヒマニ上京シ尾州ニテ下向アラシヤ筭用  
不知ノツクリコト可笑ニ餘レリ

○叢林ニ越前專修寺ノ跡ニ邪法祕事法門ヲ弘ケルト

テ寛永十二年ニ公儀ヨリ住持真教ヲ追放ト云リ是亦  
マンサラ似セ夏ナリ寛永年中ハ空惠カ公事也真教カ  
公夏ハ其ヨリ三十年餘後也皆本末ノ論ニテ全祕事法  
門ノ沙汰ニ非ス理非ノワカチヲモ不知口ニ任テ云コ  
ト誠ニ盲賊ノ常ナリ我汝ニ誨ン抑祕事ノ邪義ハ元來  
汝家ニ在寛正六年七月叡山ヨリ本願寺へ所送ノ憲書  
汝叢林ニコレヲ載タリ詳ニ見ヘシ又無尋光流ノ張本  
ハ湖西堅田本福寺江東金森等也ト叢林ニ書タリ自語  
相違ハツクリコトアラハレナリ

○或向叢林ニ真佛房顯海房ニ專修寺ヲ附スト又云越  
前國大町ノ如道ト云者高田專修寺ヲ越前熊坂ニ移シ

住ス真惠上人ノ代越前ヲ引取勢州一身田ニ移住シテ  
相續也ト云リ是義如何予云是猶例ノ大偽ナリ今一々  
ニ踏破シテ毀誉ヲ比舉セン謂高田十七代ノ中ニ頭海  
如道ト云者ナシ其證彼カ叢林專修寺相承ノ所ニ明十  
リ自語相違ハツクリコトノ常ナリ抑高田第四世專空  
上人マテハ聖人ノ命ヲ以テ住持ヲ定置ル、所ナリ第  
五世定專上人ハ專空ノ肉弟也其ヨリ第九世定頭上人  
ニ至マテ面授相承燈々綿々タリ最初嘉祿二年高田建  
立ヨリ定頭尊師ノ御代寛正五年甲申ニ至マテ曆數二  
百三十九年ノ間ハ下野國高田ニ一座不動ニレテ一日  
モ移轉ナシ第十代真惠上人ハ定頭ノ肉弟ナリ寛正六

年乙酉三十二歳ニシテ辱ク後土御門院ノ綸旨并將軍  
義政公ノ公書ヲ蒙リ下野高田ノ本寺ヲ勢州安藝郡一  
身田ニ移シ奉テ勅願所トナシタマヘリ其綸旨公書今  
現在之何ヲ天子ノ綸言將軍ノ公書ヲ掠テ如道カ建立  
越前ノ寺ヲ勢州ニ引移ト妄語スルヤ實ニ一天ノ大賊  
國家ノ強盜ナリ且彼カ家ノ來歴ヲ思フニ文明年中台  
徒ノ爲ニ寺院ヲ燒拂ハレ祖師ノ墳墓ヲ捨テ蓮如ハ尿  
灰ノ屋ニカクレ漸ク命ヲ繼テ大津ニ出奔シ三井ノ幾  
瀝ヲス、リ放心ヲ積シテ北越ニハシリ吉崎ニ大賊ト  
クミシテ惡欲ノ羅ニカ、リ劔戟ヲ振テ賀州富樫ヲ討  
其賊將却テ富樫ニ蹴散サレ越前ニ逃行黒目祿名寺惠

祐カ家僕コレヲ討取其首ニ蓮如カ賊將某ト札ヲ付テ  
獄白ニカケタリ蓮翁ハ万死ヲ遁ト雖トモ一身ヲ隱ニ  
地ナク破タル蓑笠ニテ形ヲカクシ草鞋ヲシバリツケ  
闇夜ニ小濱ニ脱猶身置所ナク雷雨ヲ戴テ丹山ニ迷ヒ  
富田若三出口吟フ後裔又山科ニ賊ヲヤシナヒ兵火ヲ  
踏テ宇治ニ餓シ大坂ニ蘇息ス然トモ猶法衣ヲ脱テ甲  
冑ニカエ念珠ヲ捨テ長刀ヲ採数万ノ且越ヲス、メテ  
修羅ノ奴トナシ終ニ信長ノ為ニ追出セラレ朽タル船  
底ニ身ヲ容秣ノ中ニ積コメラレ漸ク身命ヲ雜賀ニ繼  
是時ニ當テ祖影聖骨ハ土民ノ田園ニ埋レテ所知ナク  
芳躅靈跡ハ須和伊阿弥等カ畑ト成テ狐兔蹕ヲアラソ

フ妻妾ハ落穂ヲ拾テ飢ヲ凌キ兒子ハ東西ニ迷テ告ニ  
所ナシ殊ニ教如イヨク梟子ノ悪アリテ暫ク和歌ノ縣  
ニ屯<sup>各</sup>レテ師父ニ敵ス頭如哭テ云ク六天魔王我子トナ  
リ我法ヲ滅ス今ハ遁ルニ所ナシトテ御堂ニ薪ヲツマ  
セ行水ニ祖師ト共ニ灰燼トナラントス教如亦敗レ心  
ナラス還俗シ山上源大夫ト名ヲ替大ナル鬚髯トナリ  
テ編笠ヲ以面ヲカクシ木綿羽織ニ大小ヲサシ勢濃兩  
州ノ間ニ流浪シテ美濃國船橋願誓寺ニ忍入住持カ手  
ヲ取テ願誓寺頼ムト哭泣アリシコト悉彼兩家ノ書ニ  
明也ア、此耻辱ハ万劫ニモス、クコトヲ不得マシ

朝鮮國專修寺

朝鮮國釜山海ニ寺アリ專修寺ト號ス法ハ弥陀  
專修三昧ニシテ僧徒ハ妻帯也マレニ無妻ノ者  
モアリ塔頭八十餘宇末寺二百餘員日本親鸞師  
ノ法流顯智和尚ノ弘ムル所ナリ即為第一祖也

上朝鮮國專修寺記

○私云予天和二年八月南都東地井氏カ宅ニ於テツノ  
カニ朝鮮攻伐ノ魁帥小西攝津守ノ軍將平岡佐左衛門  
重方カ子權之介重弘ニ參會スルコトアリ倭漢ノ談話

ニ及テ後予向日我回朝鮮國ニ親鸞ノ法流アリト公モ  
レ聞コトナシヤト翌日一卷ノ書ヲ攬來テ云是我先考  
彼地ノ事ヲ誌スノ書ナリト予コレヲ披クニ釜山海專  
修寺ノ記ヲウツセル篇アリ於是我舊聞ノ不錯ヲヨロ  
コヒ今コヽニ記シテ世ニ傳フモノ余リ

高田開山親鸞聖人正統傳卷之六 終

正統傳卷之六 終

一身田御書物屋

勢州安濃津

忠兵衛開版

跋正統傳後



著書無大小皆主解惑導  
人苟無益者不作可也惟  
流祖聖人之傳記多不  
啻十餘家然不能發於文  
者蓋其力不足爾聖人

之盛德。非得班馬之筆。不能書也。宜哉其傳。或見行。或不<sub>レ</sub>行。常超良空師。曾歎全傳。不<sub>レ</sub>布於世。參考諸傳。尋文考蹟。積功累年。新編正統傳六卷。將殺青。以傳。

係之以年紀者。以示實錄也。記之以國字者。以便道俗也。不<sub>レ</sub>為無益於後學矣。是歲本德育公。為之考訂。山僧固謏劣。亦遭勝事。敢不稱羨。故喜躍而書於後。

五糸作別

覽斯編者聞所未聞。母懷  
疑兒庶幾箇々足稱我  
祖門下之孝子順孫焉  
享保丁酉春三月廿八日  
丹生郷塾衲岱岳

慧照

題



